

# 26G-am02

ピロリ菌二次除菌療法に最適製剤が使用されているか 一溶出試験からの検証—  
○久保寺 舞<sup>1</sup>, 池田 淳子<sup>1</sup>, 徳村 忠一<sup>1</sup>, 町田 良治<sup>1</sup>(<sup>1</sup>星薬大)

【目的】難治性の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因菌である *Helicobacter pylori* (ピロリ菌) の除菌には一次療法と二次療法がある。一次療法で使用されているクラリスロマイシンには耐性菌が増加しており、二次除菌療法の重要性は飛躍的に高まると考えられる。除菌療法に使用されている抗生物質は、経口投与で血中に薬物が入ってから効力を発揮するように設計されたもので、ピロリ菌除菌を目的として開発された製剤ではない。そこで、現在二次除菌療法で使用されている製剤について溶出試験を行い、ピロリ菌の除菌という観点で検証することとした。

【方法】試薬：アモキシシリン (AMX) はシグマ社製、メトロニダゾール (MTZ) は和光純薬工業社製を使用した。その他は試薬特級規格のものを使用した。製剤：AMX の製剤はパセトシン錠 (協和発酵キリン株式会社製)、MTZ の製剤はフラジール (塩野義製薬株式会社製) を使用した。溶出試験：日局 15 の第 2 法に準じて行い、薬物濃度は HPLC を用いて測定した。

【結果・考察】AMX 製剤パセトシン錠は完全に溶出するまでの時間 ( $T_{100\%}$ ) が 20 min であり、 $T_{100\%}$  6 h の AMX 原末よりも溶出が速やかであった。一方、MTZ 製剤フラジールは  $T_{100\%}$  が 3 h であり、 $T_{100\%}$  が 30 min の MTZ 原末よりも緩やかな溶出であった。時間依存性抗菌薬である AMX は徐放性であることが望ましく、濃度依存性抗菌薬である MTZ は速放性であることが望ましい。以上の結果から、現在使用されている製剤は、ピロリ菌の除菌においては改良の余地のあることが明らかとなった。